

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1491000210
法人名	社会福祉法人 豊笑会
事業所名	ライフハウス平戸
訪問調査日	平成 20年 11月 12日
評価確定日	平成 20年 12月 11日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1491000210		
法人名	社会福祉法人 豊笑会		
事業所名	ライフハウス平戸		
所在地	横浜市戸塚区平戸町1156-2 (電話) 045-828-1666		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地			
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月11日

【情報提供票より】(平成20年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 10人, 非常勤 12人, 常勤換算	12.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(515,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300円	昼食	400 円
	夕食	400円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人柏提会 戸塚共立第2病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所はJR東戸塚駅からバスで6分徒歩3分の、国道1号線から少し入った住宅地にある。近くに、竹林や公園、川沿いの散歩道があり自然に恵まれている。 ・平成20年4月、法人グループの連携強化を目的に、事業所の運営法人が、従来のライフ・サポートサービス株式会社から、同一グループ内で多様な介護保険関連の事業を運営している社会福祉法人「豊笑会」に変更になった。 ・理念には、「豊かで穏やかなほほえみの介護」を掲げ、職員はが自然なほほえみと穏やかな介護の気持ちで利用者と接している。 ・共同空間のトイレやリビングに、空気清浄機や床暖房の設備があり、利用者に優しい居心地良い環境作りに配慮している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元との交流を進めるため、平成20年度から団体会員として町内会に入会した。 ・防災に関する地域協力については地元消防団との協力体制を作り、合同消防訓練などを具体的に進める予定である。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者が自己評価の意義を説明したのち、職員全員が参加して全項目の自己評価を行い、ユニットリーダーが記入内容を確認し、管理者がまとめた。
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年1月の第1回以降、これまでに3回開催した。会議では事業所の活動実績、職員の異動状況や活動予定を報告し、出席者の要望や意見を聞いている。 ・町内会長の助言により、平成20年度から団体会員として町内会に加入した。
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面会や、納涼祭などの行事での来訪時に、家族の意見や要望を聴き取っている。 ・家族からの提案により、写真付き職員表を事業所内に掲示した。また散歩や外出の機会を増やしてほしいとの要望にはできるだけ応じるようにしている。
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会に入会したことで、地域の催し物の情報が入手しやすくなった。現在、町内の消防団との合同消防訓練を計画中である。 ・散歩、買物で外出した機会とらえ、日常的に地域の人びとと交流している。 ・ハンドマッサージやハーモニカのボランティアを定期的に受入れている。また、年に数回中学校から福祉体験実習生も受入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の運営理念は「豊かで穏やかなほほえみの介護」である。理念を実践するため、家族や地域との関係を大切にし、また、職員の知識と介護技術の向上に努めている。 ・理念は玄関、職員通用口、更衣室に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者は日頃から職員に「穏やかな介護は穏やかな職場から」と、ユニット会議やミーティングで伝え、理念の実現を図っている。 ・職員は、理念に照らしてケアを振り返り、具現化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・平成20年度に、町内会に団体会員として入会し、地域の催し物などの情報がより入手できるようになった。 ・ハンドマッサージ、ハーモニカのボランティアを定期的に受入れている。地域の中学生を、年に数回、福祉体験実習生として受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が意義を説明した後、非常勤も含め全職員が、全項目の自己評価を行い、ユニットリーダーが記入内容を確認し、最終的に管理者がまとめた。 ・職員は自己評価を通して課題に気づき、改善に向けて取り組んでいる		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・平成20年1月の第1回以降、2回開催した。出席者は、家族の代表、町内会長、民生委員、平戸地域包括支援センターの職員と事業所の関係者である。 ・会議では事業所の活動実績、職員の異動状況や活動予定を報告し、出席者の要望や意見を聞いている。		

ライフハウス平戸

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・利用者の介護認定更新時の代行申請などの機会に区役所へ行き、担当者と相談している。 ・毎月来訪する平戸地域包括支援センターの担当者から、催し物の案内を受けている。事業所は活動状況を説明し、連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・平成20年4月の運営法人の変更により、請求書発送は事業所が行うようになったので、利用者の様子を伝えるメモや手紙を同封している。 ・2階では「平戸便り」を発行し、事業所の様子や、行事予定を伝えている。1階も今後発行する予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会はないが、面会や納涼祭などの来訪時に家族の意見や要望を聞いている。 ・家族から“職員を覚えるため名前と顔が知りたい”との意見があり、2階に職員の写真を掲示した。“散歩、外出を増やしてほしい”との意見にも対応している。 ・居間の入口に、苦情相談窓口を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員交代に際しては、開設当時の職員が中心になり、利用者が不安を感じないように配慮している。 ・利用者ごとに2名の居室担当を決め、バックアップ体制をとっている。 ・管理者は休憩時に、職員の悩みや意見を聴くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・平成20年4月の運営法人変更にもない、法人内合同の研修会に参加する機会が増えた。4月の新人研修、10月の上期中途採用者の研修に参加した。 ・事業所内では、管理者、ユニットリーダーが中心となり、各シフトを2日間ずつ新人を実務研修している。	○	・職員が、外部研修に積極的に参加する機会を設けて、事業所のサービスの質がさらに向上することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・3か月ごとの、法人内の管理者会議で、グループ内の連携強化を図っている。 ・横浜市と戸塚区のグループホーム連絡会に加わり、情報交換をしている。 ・今春開設した近隣の小規模多機能型事業所と連携して、納涼祭に招待するなど相互交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に、利用者と一緒に事業所で過ごす機会を設けて、馴染みやすくしている。 ・入居後1か月間ぐらいは、利用者が落ち着くように、職員は雰囲気づくりに努めている。本人の状況に合わせ、家族と連携し、利用者が安心できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・調理、洗濯、掃除、庭での園芸や野菜作りなどを、利用者の得意分野で力を発揮できる場面をつくり、利用者職員が共に支えあう関係を築いている。 ・食材の扱い方、切り方、園芸のノウハウを職員は利用者から教わっている。 ・おやつは利用者も参加しての手作りが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当が日頃の会話や支援を通して、利用者の思いや意向を把握している。 ・職員の気付いたことは「気付きノート」に記載し、全職員が共有している。 ・意思疎通が困難な利用者の思いや意向は、家族から聴取したり、しぐさや表情を見て把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・家族や入居前のサービス提供者から本人の情報を入手し、アセスメント表に記入している。 ・毎月のユニット会議で、利用者全員の課題を検討し、介護計画に採り入れている。 ・「気付きノート」に記録した利用者の状況を、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は毎月のユニット会議で点検し、3か月ごとに見直ししている。利用者の状況に変化があれば、その都度見直しをしている。 ・訪問診療医師の意見を尊重し、また、家族の意見を聞いて介護計画の見直しに反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・平成20年4月の、運営法人変更の目的は、同一法人内の各種介護事業との連携を強化し「サイクル介護」を実現することである。利用者や家族の状況に応じて、法人としての総合力を活かすようにしている。 ・病院や美容院への付添いは、家族の要望に沿って、職員が柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前からのかかりつけ医を受診している利用者が多い。通院困難になれば、訪問診療を利用している。 ・職員は年に1回、健康診断を受け、インフルエンザの予防注射も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・医療との連携体制がないため、重度化した場合は、法人内の他施設にスムーズに移ることを支援している。 ・経口で食事が摂れ、家族・本人が希望する限り、事業所で、お世話をする方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員に個人情報保護について説明し、利用者の誇りを損ねない言葉かけを心がけ、ユニット会議で確認し合っている。 ・排泄・入浴介助は一対一で行っている。利用者の意向があれば、同性介助をしている。 ・個人情報に関する書類は事務室に施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・生活のリズムを大切に、起床や朝食時間は利用者のペースに合わせた暮らしを支援している。 ・利用者のしたいことを第一に考え、希望に応じて職員との外出や趣味を楽しむ時間を大切にしている。レクリエーションへの参加は本人の意志に任せている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材調達はレシピ付きで業者に委託しているが、利用者の好みで、事業所独自の献立にしたり、味付けや盛り付けに変化をつけている。 ・誕生会には特別メニューの赤飯やケーキを作って祝っている。おやつは利用者と一緒に手作りしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・日曜日以外は毎日入浴している。1階には入浴リフトがあり、体が不自由になっても入浴できる設備がある。 ・羞恥心を感じる利用者には同性介助をしている。 ・脱衣室からはベランダに通じており、開放感があり、湿気がこもらない構造になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・調理の手伝いや配膳、片付け、掃除など、利用者の残存能力を活かせるよう、今できることを中心に張り合いと喜びのある生活ができるように支援している。 ・草花、野菜を育てたり、絵画や手芸を楽しむ時間を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者の希望や体調に合わせて、近くの公園や川沿いを散歩している。ホームセンターへの買物や、外出に出かけるなど日常的に戸外での楽しみを支援している。 ・車いすの利用者にも外出の機会を多くしている。散歩が困難なときは、ベランダで外気浴を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関の鍵はかけているときもあるが、ドアに鈴をつけることで、鍵を掛けない時間を長くしている。 ・サービスステーションのモニター画面で、共用スペースを見守り、外出願望のある利用者には、ベランダに誘うなどの対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に1回、消防署の指導で、隣接の事業者と合同で消防訓練を行っている。平成20年3月の訓練では、利用者も参加しての避難誘導を実施した。 ・町内会との合同訓練をこれから検討していく。 ・非常用の食料、飲料水の備蓄は、していない。	○	町内会に加入して地域との交流が前進しました。今後は更に災害時に備え、町内会との一層の連携が期待されます。また、必要最小限の非常時用の備蓄が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・業者の管理栄養士が作成したメニューの食材を購入している。 ・水分の摂取が特に必要な利用者に対しては、味噌汁やお茶で水分量を増す工夫をしている。 ・食事前の嚥下体操として「青い山脈」を歌い食欲を促している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・共同空間には空気清浄機や床暖房施設があり、清潔で居心地良い場所になっている。 ・利用者はリビングのソファでくつろぎ、ベランダのベンチで気軽に外気に触れ、鉢植えの花を楽しんでいる。 ・誕生会の写真や、小学生からのメッセージを貼り、楽しい空間を作っている。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・仏壇、使い慣れた整理ダンス、家族の写真、置物、手芸品を飾り、好みのカーテンを取付け、個性ある居室にしている。 ・備付けのクローゼットは大きく、好みの衣服を持込むことができる。 ・利用者は部屋ごとに心地良く過ごせる温度設定をしている。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム ライフハウス平戸
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-2
記入者名 (管理者)	田中 利政
記入日	平成 20 年 10 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「家族や地域の方々との関係を大切に、開放的なグループホーム作り」を事業所の理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関ホール、職員通用口、更衣室等に掲示し、各職員の目に付くようにしている。また会議やミーティングの中で理念の周知徹底に努めている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や見学者の目に付く玄関ホールや事務所に事業所の理念、サブ理念を掲示している。 ・見学時や入所時に理念を説明している。 	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の良い時は、毎日のように近くの公園へ散歩に出かけたりし、近隣の人と交流できる機会をもったり、近くのスーパーへ買物へ行った際にこちらから挨拶するように努めている。 ・納涼祭の案内をしたり、地域の方に参加して頂いている。 	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入しているが、入居者のレベルも重度化している為、地域の行事参加は難しくなっている。 ・地域の方が行なっているハーモニカ演奏やハンドマッサージなどのボランティアを定期的に受け入れている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>区内にある中学校、2校より福祉体験学習を毎年受け入れている。</p>	○	<p>地域住民や高齢者を対象に認知症に関する相談会や講習会を開けるよう準備を進めていきたい。また来年度からは区内にある介護福祉士養成校の実習を受け入れていく予定である。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価結果を玄関ホール、スタッフルームに置いている。改善しなくてはいけない項目は会議の中で話し合うようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、会議等で検討している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また介護認定更新時の代行申請の際に区の高齢者支援担当と相談したり、地域包括支援センターの担当者には毎月訪問していただいている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等に参加しており、必要時に説明をし、後見人制度を活用している利用者もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員同士がお互い気を付け、虐待に当たる行為がないように事業所全体で注意を払っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。質問についても理解して頂けるように丁寧に対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの要望等は、出来る限り意見が反映されるようにその都度、職員間で検討するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・電話連絡や面会時に生活の様子を伝えたり、手紙で行事の案内をしている。金銭管理は定期的に出納帳、領収書を家族に確認して頂いている。 ・健康状態が悪化した場合は、速やかに家族に連絡し、通院等の検討をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口について明記し、家族へ説明していると共に、玄関ホールにも掲示している。また家族の面会時に要望等を確認するようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・運営者は定期的に各事業所の管理者を招集し、管理者会議、法人内グループホームの管理者、ユニットリーダーを招集したグループホーム連絡会を開催し、意見を聞いている。 ・管理者は月1回のユニットごとの会議で職員の意見を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は通常時のシフトの入っていないため、利用者の対応が大変な場合はいつでも協力できる体制となっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階、2階の職員の異動は最小限とし、退職者による人員不足が無いように早めに人員を確保し、利用者の不安を少なくするように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内事業所の新任職員対象にオリエンテーション、新人研修を行なっている。また管理者・ユニットリーダーが中心となり、各シフトを2日間ずつ新任職員に実務研修をしている。</p>	<p>○</p> <p>職員体制の問題もあり、外部研修に参加する機会が少ない。職員個々のレベルに応じて、必要であろうと思われる研修内容を見極め、外部研修に参加する機会を増やせるようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・横浜市グループホーム連絡会や戸塚区グループホーム連絡会にて勉強会、情報交換をしている。</p> <p>・隣接するグループホームとは、防災訓練、運営推進会議、行事などで日常的に情報交換をしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・運営者は各会議等で、各事業で抱えている課題や問題点を共に考えていける体制を整えている。また法人本部の担当者が定期的に訪問し、運営者との窓口になっている。</p> <p>・管理者は休憩時間等に事務所内の休憩室で職員個々の悩みを話せる様な雰囲気作りに努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は法人本部の担当者や管理者からの報告で、職員個々の状況を把握している。常勤職員の登用や配置転換などの希望にも随時、検討している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回の見学時や自宅訪問時に本人の話を聞く機会を設けている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話相談、見学、自宅訪問等、段階を踏んで話を聞く機会を設けている。必要に応じてサービス提供事業者からも話を聞いたり、情報収集を行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば、入居前にホームの見学や食事、レクリエーション等で他の利用者と一緒に過ごせる機会を作り、本人が馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・庭で野菜の栽培や園芸の作業を利用者と共に行なっている。肥料のやり方や栽培方法を経験のある利用者から教えて頂いている。 ・掃除の時間には、各場所の担当を決め利用者に手伝って頂いている。 ・調理方法などを利用者から教えて頂くことがあり、職員も勉強になっている。 		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面会をお願いし、本人との関係を持っていただいている。 ・行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。 		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面会をお願いし、本人と過ごす時間を持って頂いている。 ・家族との外食を楽しんでいただいたり、散髪やお墓参りに同行していただいたりしている。 		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の出身地や生い立ちの思い出を大切にし、本人との会話の時間を大切にしている。また家族には知人の面会や外出をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、食堂の席や作業グループを決めたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所後、自宅へ戻られた利用者は少ないが、電話で連絡を取ったりしている。 ・長期入院のため退所した利用者の病院に面会したりして状況の確認をし、再入所の可能性があれば、家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当者が担当の利用者と信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。本人の希望の確認が困難な場合は、家族の面会時に家族の意見を聞きながら、本人に望ましいかたちを検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やサービス提供事業者から情報を収集し、アセスメントシートに記載し本人の状況を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者の1日の生活の中で職員が気付いた事は各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。 ・毎日の申し送りや毎月のユニット会議の中で、生活や健康状態について全職員が利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居前に本人が趣味で行っていたことや生活習慣を本人、家族から聞き取り、介護計画に反映している。 ・日々の業務の中では充分検討しきれない部分を毎月のユニット会議で全職員が出席し、利用者の課題を検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しをし、状況に著しい変化があった場合はその都度、見直しを行なっている。家族には電話連絡や面会時に相談をし、現状に即した介護計画の作成をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況報告書に日中、夜間の状態を分け記載をしている。利用者の様子、職員の対応状況を記録し、全職員が把握できるようかたちになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・外出や通院等もその時の状況に合わせて柔軟に対応している。 ・納涼祭など大きな行事では、法人内の各事業所からも協力してもらい実施している。 ・家族や利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な事があれば総合的に支援できる体制を整えている。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にウクレレ、ハーモニカ、ハンドマッサージ等のボランティアに来てもらったり、避難訓練等消防署と協力して支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用している利用者はいないが、必要性に応じて地域のケアマネジャーや地域包括支援センター等と支援していく体制は整っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度を活用している利用者もおり、必要に応じて地域包括支援センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望を優先し、入居前からのかかりつけ医に受診している利用者が多い。通院は原則、家族の付き添いをお願いしているが、状況により職員が対応している。また通院に負担がある利用者においては2週間に1回の訪問診療や月1回の往診を受け、主治医と連携をとっている。		

ライフハウス平戸(1F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者個々の主治医と相談する機会を持ち、必要に応じ、精神科の受診をし、助言や指示を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、4割の利用者は2週間に1回、訪問診療を受けており、看護師と日常面での健康管理について相談をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院が長引くと認知症が進む為、病院の医療相談員との定期的な連絡や病院での面会の際に看護師等から本人の状態を確認し、家族と共に医師との退院に向けた話し合いの場を設けている。また退院後の生活や対応についても職員間で検討している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・家族や利用者の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間での話し合い、方向性を考えている。 ・看護師の職員配置がない為、医療的な処置が多くなってきた場合はホームでの生活が難しいが、法人内の他のサービスで支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設後4年が経過し、利用者は年々、重度化している。状態に合わせ、ミーティング等で対応の方法を検討している。状況や状態によって対応が困難な場合もある為、主治医とも相談をし、家族が納得できるような方向性を考えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去後も穏やかな生活が継続できるように、家族との話し合いや入所先の施設の職員や関係機関への情報提供や相談を行い、住み替え時の時期や方法を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることが無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。 ・個人ファイルは事務室に鍵をかけて保管している。 ・個人情報保護方針を玄関ホールに掲示し、注意を促している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に決めていただけるような声掛け、対応を行なっている。本人が判断しにくい場合はいくつかの選択肢から選んでもらっている。本人の意向が確認しにくい場合は、行動や表情の変化を察知し、本人が納得され行動しているかどうかを考察し、支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、本人の状態に合わせて参加して頂いたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、本人のペースで1日を過ごして頂けるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師免許をもつ職員がおり、家族や利用者の好みを踏まえ対応している。また希望があれば、近隣の理髪店へ行ったり、ボランティアによるハンドマッサージや化粧も行なっている。 ・衣替えの時期には本人の好みの物を家族に入れ替えをお願いしている。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や配膳・下膳は利用者個々の能力に応じて、行なっている。 ・献立は配食会社で考えられたものではあるが、季節ごとのメニューもあり、利用者の希望により献立を変更することも出来る。 ・誕生日会や行事の際は、利用者の好みを踏まえ、職員が献立を考え提供する場合もある。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは、本人の嗜好に合わせて提供が出来るようにいくつかの種類を用意している。飲酒や喫煙も、家族の意向や主治医からの制限が無ければ、可能である。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェックシートを活用し本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしない利用者にも必ずトイレに誘導し、便座に座ってもらっている。 ・便秘の解消に散歩など適度な運動や腹部マッサージをしたり、乳製品を摂って頂く様々に支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。その日によって入浴剤を変えるなどして入浴を楽しめるように配慮している。また異性の職員の介助が苦手な利用者の場合、プライバシーを尊重して同性で介助するなどの配慮をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人ファイルに睡眠のリズムを記録し、本人の生活習慣や状態によって、就寝・起床時間を合わせている。リビングのソファで休んだり、昼寝が出来るようにしている。また夜間眠れない方には、眠剤は極力使用しないように見守りや話し相手をしたり、ホットミルクを飲んでいただいたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活習慣を配慮して、調理や掃除などの家事を役割分担し、行なっていただいたり、以前趣味で行っていた絵画、裁縫、園芸などが行なえるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品、食材、おやつ等の買物で利用者と一緒に近くのスーパーまで行き、支払いをしていただいたり、納涼祭などの行事の際に金券や小銭を持っていただき模擬店の支払いをしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の午前中は、近くの公園などに散歩に出かけたり、庭先やベランダで日光浴やレクリエーションなどを行なうようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの行事に合わせて、初詣、お花見、外食などを実施している。また家族にも協力して頂き、外出の機会が多くもてるように支援している。家族によって定期的にお墓参りやお孫さんの学校の催しに付き添っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも手紙、電話のやり取りが出来るように対応している。本人が行なうことが困難な場合は、職員が補助をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めてはいないため、家族等にはいつでも訪問して頂いている。仕事等で夜間来られる方にも柔軟に対応している。また家族等に定期的な面会をお願いしている。また面会者に本人とくつろいで頂ける様にお茶をお出しし、リビング、居室にて過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、身体拘束の対象になるような行為がないように指導している。また職員間でも身体拘束にあたる対応で無いかどうか確認し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	極力、日中は鍵はかけないようにしているが、時間帯や利用者の状態によってやむを得ない場合は鍵はかけている。利用者の中には鍵の開け方を知っている方もいるため、簡単に玄関の鍵は開けれるようになっている。また開閉時に鈴が鳴るように工夫している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の構造上からも安否確認がしやすく、フロアーには職員が必ず付くようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・基本的に居室には利用者の愛着のある物は制約なく置いて頂いている。本人の状態により危険と思われるものは家族と相談した上で保管させて頂く場合もある。 ・共用部分に置いてある洗剤や薬品は利用者の目の届きにくい場所に置いたり、施錠をして管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の身体、精神的な変化に注意をし、細かい観察が出来るように職員間で情報を共有し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認しあっている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	他法人が運営するグループホームに隣接しており、合同で防災訓練を行ったり、日頃からお互いに協力し合える体制をとっている。	○	災害時の防災用品や非常食の備蓄を整備していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居相談時や契約時に考えられるリスクについて説明し、家族が理解した上で入居していただく様にしている。入居中の状況による変化で起こり得るリスクはその都度、電話連絡や面会時に家族と相談をして対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温、血圧測定をし、バイタルチェック表に記録している。また体調の変化がある場合は朝夕の申し送りの際に職員間で情報を共有している。利用者の状態により、家族に報告し受診の相談をしたり、訪問診療、往診の主治医に確認するなど初期段階での対応ができるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の説明書をいつでも確認できるようにファイルしている。処方内容が変わった場合、申し送りを徹底し、服薬後の状態を観察している。また訪問診療を受けている利用者の場合は、薬剤師より薬の目的、用法、服薬時の注意点について説明を受け、職員側からは服用時の状態を報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や繊維質が多い食材を献立に入れたり、10時の水分補給時にオリゴ糖入りのゼリーを提供している。またスタッフが作成したビデオ体操を行なうなど便秘の解消に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを励行し、就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を維持している。また近くの歯医者に歯磨きの仕方や舌苔の取り方などを教えてもらっている。		

ライフハウス平戸(1F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェックは毎食記録をしている。食事は配食会社の栄養士が立てた献立となっている為、カロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせ、職員が工夫して調理をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、利用者、職員のインフルエンザの予防接種をしている。感染症対策は市衛生局等の資料を基にマニュアル化し、対処している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は配食会社から新鮮なものを前日に届けてもらっている。調理用具の洗浄、消毒を行い台所の清潔を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口のスロープに沿って花壇を作り、ベンチを置いて家族や地域の方々との交流が気軽に行なえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間、食堂には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、季節の応じた装飾をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を配慮しながら、食堂の席を決めたり、ソファでくつろいだりして頂いている。		

ライフハウス平戸(1F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の際に窓を開け、換気扇、空気清浄機等で換気をしている。共用部分の温度調整はこまめに行ない、居室は本人の状態に合わせ温度設定にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、フロア内、トイレ、浴室等利用者が行動する要所に手摺を設置し、利用者が出来るだけ自力で移動を可能とする工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの利用者に本人に合わせた日常生活の役割を決めており、本人に全てを任せるのは危険と判断される場合は、自尊心を傷つけないように複数で作業したり、職員が協力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ前の庭を菜園にして、利用者と一緒に野菜を作ったり、花を植えたりしている。水撒きや草取りも行っている。またベランダで日光浴や歌を歌ったりして過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ライフハウス平戸(1F)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方のこれまでの生活習慣を大事にし、日常生活の中で無理なく出来ることを行っていただき、職員は利用者一人ひとりのペースに合わせて必要な支援をしています。

季節ごとの行事やボランティアによる催し、毎日のレクリエーションを通して単調な生活にならないようにしています。また天気の良い時には屋外に出たり、散歩、買物を楽しんでいます。歌がお好きな利用者が多いためいつも歌声が響いている明るいホームです。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	高齢者グループホーム ライフハウス平戸
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-2
記入者名 (管理者)	田中 利政
記入日	平成 20 年 10 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「家族や地域の方々との関係を大切に、開放的なグループホーム作り」を事業所の理念としている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関ホール、職員通用口、更衣室等に掲示し、各職員の目に付くようにしている。また会議やミーティングの中で理念の周知徹底に努めている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や見学者の目に付く玄関ホールや事務所に事業所の理念、サブ理念を掲示している。 ・見学時や入所時に理念を説明している。 	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の良い時は、毎日のように近くの公園へ散歩に出かけたりし、近隣の人と交流できる機会をもったり、近くのスーパーへ買物へ行った際にこちらから挨拶するように努めている。 ・納涼祭の案内をしたり、地域の方に参加して頂いている。 	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入しているが、入居者のレベルも重度化している為、地域の行事参加は難しくなっている。 ・地域の方が行なっているハーモニカ演奏やハンドマッサージなどのボランティアを定期的に受け入れている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>区内にある中学校、2校より福祉体験学習を毎年受け入れている。</p>	○	<p>地域住民や高齢者を対象に認知症に関する相談会や講習会を開けるよう準備を進めていきたい。また来年度からは区内にある介護福祉士養成校の実習を受け入れていく予定である。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価結果を玄関ホール、スタッフルームに置いている。改善しなくてはいけない項目は会議の中で話し合うようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、会議等で検討している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また介護認定更新時の代行申請の際に区の高齢者支援担当と相談したり、地域包括支援センターの担当者には毎月訪問していただいている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等に参加しており、必要時に説明をし、後見人制度を活用している利用者もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員同士がお互い気を付け、虐待に当たる行為がないように事業所全体で注意を払っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。質問についても理解して頂けるように丁寧に対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの要望等は、出来る限り意見が反映されるようにその都度、職員間で検討するようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・電話連絡や面会時に生活の様子を伝えたり、手紙で行事の案内をしている。金銭管理は定期的に出納帳、領収書を家族に確認して頂いている。 ・健康状態が悪化した場合は、速やかに家族に連絡し、通院等の検討をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談窓口について明記し、家族へ説明していると共に、玄関ホールにも掲示している。また家族の面会時に要望等を確認するようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・運営者は定期的に各事業所の管理者を招集した管理者会議、法人内グループホームの管理者、ユニットリーダーを招集したグループホーム連絡会を開催し、意見を聞いている。 ・管理者は月1回のユニットごとの会議で職員の意見を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は通常時のシフトの入っていないため、利用者の対応が大変な場合はいつでも協力できる体制となっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1階、2階の職員の異動は最小限とし、退職者による人員不足が無いように早めに人員を確保し、利用者の不安を少なくするように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>職員体制の問題もあり、外部研修に参加する機会が少ない。職員個々のレベルに応じて、必要であろうと思われる研修内容を見極め、外部研修に参加する機会を増やせるようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば、入居前にホームの見学や食事、レクリエーション等で他の利用者と一緒に過ごせる機会を作り、本人が馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・庭で野菜の栽培や園芸の作業を利用者と共に行なっている。肥料のやり方や栽培方法を経験のある利用者から教えて頂いている。 ・掃除の時間には、各場所の担当を決め利用者に手伝って頂いている。 ・調理方法などを利用者から教えて頂くことがあり、職員も勉強になっている。 		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面会をお願いし、本人との関係を持っていただいている。 ・行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。 		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な面会をお願いし、本人と過ごす時間を持って頂いている。 ・家族との外食を楽しんでいただいたり、散髪やお墓参りに同行していただいたりしている。 		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の出身地や生い立ちの思い出を大切にし、本人との会話の時間を大切にしている。また家族には知人の面会や外出をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、食堂の席や作業グループを決めたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所後、自宅へ戻られた利用者は少ないが、電話で連絡を取ったりしている。 ・長期入院のため退所した利用者の病院に面会したりして状況の確認をし、再入所の可能性があれば、家族と相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当者が担当の利用者と信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。本人の希望の確認が困難な場合は、家族の面会時に家族の意見を聞きながら、本人に望ましいかたちを検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やサービス提供事業者から情報を収集し、アセスメントシートに記載し本人の状況を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者の1日の生活の中で職員が気付いた事は各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。 ・毎日の申し送りや毎月のユニット会議の中で、生活や健康状態について全職員が利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居前に本人が趣味で行っていたことや生活習慣を本人、家族から聞き取り、介護計画に反映している。 ・日々の業務の中では充分検討しきれない部分を毎月のユニット会議で全職員が出席し、利用者の課題を検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しをし、状況に著しい変化があった場合はその都度、見直しを行なっている。家族には電話連絡や面会時に相談をし、現状に即した介護計画の作成をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況報告書に日中、夜間の状態を分け記載をしている。利用者の様子、職員の対応状況を記録し、全職員が把握できるようなかたちになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・外出や通院等もその時の状況に合わせて柔軟に対応している。 ・納涼祭など大きな行事では、法人内の各事業所からも協力してもらい実施している。 ・家族や利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な事があれば総合的に支援できる体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的なウクレレ、ハーモニカ、ハンドマッサージ等のボランティアに来てもらったり、避難訓練等消防署と協力して支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用している利用者はいないが、必要性に応じて地域のケアマネジャーや地域包括支援センター等と支援していく体制は整っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度を活用している利用者もあり、必要に応じて地域包括支援センターと協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望を優先し、入居前からのかかりつけ医に受診している利用者が多い。通院は原則、家族の付き添いをお願いしているが、状況により職員が対応している。また通院に負担がある利用者においては2週間に1回の訪問診療や月1回の往診を受け、主治医と連携をとっている。		

ライフハウス平戸(2F)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることが無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。 ・個人ファイルは事務室に鍵をかけて保管している。 ・個人情報保護方針を玄関ホールに掲示し、注意を促している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に決めていただけるような声掛け、対応を行なっている。本人が判断しにくい場合はいくつかの選択肢から選んでもらっている。本人の意向が確認しにくい場合は、行動や表情の変化を察知し、本人が納得され行動しているかどうかを考察し、支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、本人の状態に合わせて参加して頂いたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、本人のペースで1日を過ごして頂けるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・美容師免許をもつ職員がおり、家族や利用者の好みを踏まえ対応している。また希望があれば、近隣の理髪店へ行ったり、ボランティアによるハンドマッサージや化粧も行なっている。 ・衣替えの時期には本人の好みの物を家族に入れ替えをお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理や配膳・下膳は利用者個々の能力に応じて、行なっている。 ・献立は配食会社で考えられたものではあるが、季節ごとのメニューもあり、利用者の希望により献立を変更することも出来る。 ・誕生日会や行事の際は、利用者の好みを踏まえ、職員が献立を考え提供する場合もある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつは、本人の嗜好に合わせて提供が出来るようにいくつかの種類を用意している。飲酒や喫煙も、家族の意向や主治医からの制限が無ければ、可能である。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェックシートを活用し本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしない利用者にも必ずトイレに誘導し、便座に座ってもらっている。 ・便秘の解消に散歩など適度な運動や腹部マッサージをしたり、乳製品を摂って頂く様に支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。その日によって入浴剤を変えるなどして入浴を楽しめるように配慮している。また異性の職員の介助が苦手な利用者の場合、プライバシーを尊重して同性で介助するなどの配慮をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人ファイルに睡眠のリズムを記録し、本人の生活習慣や状態によって、就寝・起床時間を合わせている。リビングのソファで休んだり、昼寝が出来るようにしている。また夜間眠れない方には、眠剤は極力使用しないように見守りや話し相手をしたり、ホットミルクを飲んでいただいたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活習慣を配慮して、調理や掃除などの家事を役割分担し、行なっていただいたり、以前趣味で行っていた絵画、裁縫、園芸などが行なえるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品、食材、おやつ等の買物で利用者と一緒に近くのスーパーまで行き、支払いをしていただいたり、納涼祭などの行事の際に金券や小銭を持っていただき模擬店の支払いをしていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の午前中は、近くの公園などに散歩に出かけたり、庭先やベランダで日光浴やレクリエーションなどを行なうようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの行事に合わせて、初詣、お花見、外食などを実施している。また家族にも協力して頂き、外出の機会が多くもてるように支援している。家族によって定期的にお墓参りやお孫さんの学校の催しに付き添っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも手紙、電話のやり取りが出来るように対応している。本人が行なうことが困難な場合は、職員が補助をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めてはいないため、家族等にはいつでも訪問して頂いている。仕事等で夜間来られる方にも柔軟に対応している。また家族等に定期的な面会をお願いしている。また面会者に本人とくつろいで頂ける様にお茶をお出しし、リビング、居室にて過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、身体拘束の対象になるような行為がないように指導している。また職員間でも身体拘束にあたる対応で無いかどうか確認し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	極力、日中は鍵はかけないようにしているが、時間帯や利用者の状態によってやむを得ない場合は鍵はかけている。利用者の中には鍵の開け方を知っている方もいるため、簡単に玄関の鍵は開けれるようになっている。また開閉時に鈴が鳴るように工夫している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の構造上からも安否確認がしやすく、フロアーには職員が必ず付くようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・基本的に居室には利用者の愛着のある物は制約なく置いて頂いている。本人の状態により危険と思われるものは家族と相談した上で保管させて頂く場合もある。 ・共用部分に置いてある洗剤や薬品は利用者の目の届きにくい場所に置いたり、施錠をして管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の身体、精神的な変化に注意をし、細かい観察が出来るように職員間で情報を共有し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認しあっている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	他法人が運営するグループホームに隣接しており、合同で防災訓練を行ったり、日頃からお互いに協力し合える体制をとっている。	○	災害時の防災用品や非常食の備蓄を整備していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居相談時や契約時に考えられるリスクについて説明し、家族が理解した上で入居していただく様にしている。入居中の状況による変化で起こり得るリスクはその都度、電話連絡や面会時に家族と相談をして対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、体温、血圧測定をし、バイタルチェック表に記録している。また体調の変化がある場合は朝夕の申し送りの際に職員間で情報を共有している。利用者の状態により、家族に報告し受診の相談をしたり、訪問診療、往診の主治医に確認するなど初期段階での対応ができるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の説明書をいつでも確認できるようにファイルしている。処方内容が変わった場合、申し送りを徹底し、服薬後の状態を観察している。また訪問診療を受けている利用者の場合は、薬剤師より薬の目的、用法、服薬時の注意点について説明を受け、職員側からは服用時の状態を報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や繊維質が多い食材を献立に入れたり、10時の水分補給時にオリゴ糖入りのゼリーを提供している。またスタッフが作成したビデオ体操を行なうなど便秘の解消に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを励行し、就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を維持している。また近くの歯医者に歯磨きの仕方や舌苔の取り方などを教えてもらっている。		

ライフハウス平戸(2F)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェックは毎食記録をしている。食事は配食会社の栄養士が立てた献立となっている為、カロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせ、職員が工夫して調理をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、利用者、職員のインフルエンザの予防接種をしている。感染症対策は市衛生局等の資料を基にマニュアル化し、対処している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は配食会社から新鮮なものを前日に届けてもらっている。調理用具の洗浄、消毒を行い台所の清潔を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口のスロープに沿って花壇を作り、ベンチを置いて家族や地域の方々との交流が気軽に行なえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居間、食堂には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、季節の応じた装飾をしている。 ・		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を配慮しながら、食堂の席を決めたり、ソファでくつろいだりして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の際に窓を開け、換気扇、空気清浄機等で換気をしている。共用部分の温度調整はこまめに行ない、居室は本人の状態に合わせ温度設定にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、フロア内、トイレ、浴室等利用者が行動する要所に手摺を設置し、利用者が出来るだけ自力で移動を可能とする工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの利用者に本人に合わせた日常生活の役割を決めており、本人に全てを任せるのは危険と判断される場合は、自尊心を傷つけないように複数で作業したり、職員が協力している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにあるプランターで、利用者と一緒に野菜を作ったり、花を植えたりしている。水撒きや草取りも行っている。またベランダで日光浴や歌を歌ったりして過ごしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方の今までの生活習慣を大事にし、日常生活の中で無理なく出来ることを行っただき、職員は利用者一人ひとりのペースに合わせて必要な支援をしています。季節ごとの行事やボランティアによる催し、毎日のレクリエーションを通して単調な生活にならないようにしています。納涼祭などの大きな行事の際には、法人内の全事業所同士で協力し合い、盛大に行なっています。また天気の良い時には出来る限り、屋外に出るようにし、散歩、買物を楽しまれています。

歌がお好きな利用者が多いためいつも歌声が響いている明るいホームです。